

⑬ 舞鶴市桃山町ゾーン30整備事業

受賞機関 舞鶴市

キーワード 生活道路、ゾーン30プラス、スムーズ横断歩道、通学路の変更

全建賞審査委員会の評価ポイント

検討段階から警察や地元自治会と連携して、ゾーン30と物理的デバイスを組み合わせた対策事業。速度低下の効果が発現するなど、エリア内の安全性の向上が図られた点や、通学路の変更などソフト対策もあわせて実施して更なる安全性の向上を図る取組を行った点が評価された。

1. はじめに

舞鶴市では、市民を交通事故から守るため、国、京都府、京都府警察、関係機関・団体そして地域住民と一体となり、市民の理解と協力を得ながら、様々な対策を実施しているところである。

本市における交通事故の発生件数および死傷者数は減少傾向にある。しかし、全国的な生活道路における死者数の減少幅は小さく、生活道路において安全対策が求められている。

2. 事業の概要

舞鶴市桃山町は、JR東舞鶴駅周辺で住宅地に隣接して小学校や病院など公共性の高い施設が立地するエリアであり、歩道のない狭い路肩を児童が通学路として通行している状況であった。また、エリア内を抜け道として幹線道路から生活道路に通過交通が流入しており、住民から安全対策の要望が寄せられていた。

地域の課題を道路管理者・警察および住民が「ゾーン30」を整備して、課題解決することを同意し、検討段階から連携・協力を図って事業を実施した。



物理的デバイス（スムーズ横断歩道）の状況

3. 事業の成果

1) 関係機関との連携

事業の検討段階から、道路管理者・警察および住民が連携して事業を実施したことにより、計画説明や合意形成がスムーズに行うことができた。現場においては、工事や物理的デバイスの設置に関して、住民等の苦情なく実施することができた。また、本事業にあわせて、小学校では通学路の変更を行うなど、地域が一体となって課題解決に取り組んだ。

2) 整備効果

整備前後の1時間当たり（7:30～8:30）の交通量と平均速度を現地で実測した。結果は、交通量が44%の減少で平均速度が26%の減少となった。また、エリア内の平均速度が30km/hを下回っており、整備効果を確認できた。

物理的デバイス（スムーズ横断歩道、ハンプ等）を設置することによって、これまでドライバーの意識や感覚に委ねられていた対策が物理的に抑制できることにより確実に効果を発揮することにつながった。



対策内容および関係機関との連携状況

4. おわりに

本事業は、「ゾーン30プラス」の要件を満たした整備を行っており、令和4年度内に「ゾーン30プラス」の整備が完了する予定である。引き続き生活道路における歩行者の安全確保に努めていきたい。

最後に、本事業の実施にあたり、ご理解とご協力をいただいた各方面の関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。